

第36回福岡県美しいまちづくり建築賞 受賞作品概要

住宅の部 大賞

ハウス シー / ショップ ジー
「houseG / shopG」



設計趣旨

古くは漁村として、江戸時代には唐津街道沿いの宿場町として栄えた計画地は近年大規模な建替えが起こっており、海と街道に根ざしたかつての営みは今では見られなかった。しかしその歴史性は「地割」と、減りつつも残る町家や社寺の建ち方にしっかりと記憶されており、変わらぬ構造的性としての信頼ができたため、それを建築の質へと置き換えるスタディを進めた。

現れたのは基準モジュールである2,400mmの間口、高さ6,000mmの断面が奥に向かい9スパン延びる一室空間だ。その道のような質を持つ「がらんどろ」の傍ら、基準モジュールの約数600mmを減じながら敷地形状にアジャストしつつその界壁を構造壁とした空間が並走する。上方では金属ブレースを長辺方向に反復配置、短辺断面は上下対角に耐力要素が分布した状態となった。

施主は当初、住まいに加え簡易な飲食業を行う予定だったが、結果的には通りに大きく開かれた鮎屋となった（この移り変わりには驚いた）。しかし彼らにとっては未だ現れていない空間がどのようなものになるかを町の歴史と地続きで実感し、そして引き受けようという気概がその変遷に現れていたようだった。

地域固有の歴史性を軸足に、もう一方は生活の変化に対するしなやかさを備えるあり方。場への信頼と許容性、そしてひとの生き方を後押しする動機となるような建築を目指した。

一般建築の部 大賞

ださいふてんまんぐう かりでん
「太宰府天満宮 仮殿」



設計趣旨

太宰府天満宮 124年ぶりの御本殿大改修工事に際し、その3年の工事期間に設けられる仮殿。

豊かな自然や天満宮の1100年以上の歴史と伝統といった重層性をどう受け止め、つり合い、そして未来につながる形とするか。スタディを重ね、御本殿の大きくて美しい屋根を無視することはできない感覚と、古くから残る伝統や伝説が太宰府天満宮の地にて受け継がれていることに意識を傾け、強い存在である屋根を弱い存在とさせる為に自然の力を借りる「浮かぶ森」のコンセプトが生まれた。

齋場内は、現代的なプロポーションと伝統的な空間が水平線上に広がり、御扉を中心とした祭壇が、森の影の中から印象深く映えることを意識している。内部に近づくともルーバー状の天井が曲面状に現れる。これは御本殿の伝統的な垂木を踏襲しており、齋場内の厳粛な空間へとなめらかに誘う。さらに内部に踏み入ると、齋場の天窓から美しい空と共に森が目飛び込み、再び天満宮の豊かな自然を体全体で感じることができる。

屋根上の樹木は、太宰府天満宮境内のアイデンティティでもあるクスノキをはじめとする常緑を主体としている。加えて太宰府天満宮の梅林で育てられた梅の木や、花や色彩が季節によって変化する樹種を用いて境内の自然と共に変化する。